

山本大臣閣議後会見

平成26年5月20日

1. 近日中に取りまとめ・決定を予定している案件について

近日中に取りまとめ・決定を予定している案件について

科学技術・イノベーション

○科学技術イノベーション総合戦略(改定)(6月末閣議決定予定)

IT政策

世界最先端IT国家創造宣言(改定)(6月閣議決定予定、同月工程表を本部決定予定)

パーソナルデータの利活用に関する制度改正大綱(仮)(6月本部決定予定)

ITコミュニケーションの活用促進に向けた提言(仮)(5月予定)

知的財産戦略

○知的財産推進計画2014(6月本部決定予定)

総合海洋政策

○参与会議意見書(5月下旬頃予定)

○「国境離島の保全、管理及び振興のあり方に関する有識者懇談会」最終提言

(6月下旬～7月頃予定)

情報セキュリティ

○IT利活用セキュリティ総合戦略推進部会提言(7月頃予定)

2. 提言：『国際情報戦を勝ち抜くための 日本大使発信強化の方策』について

提言：『国際情報戦を勝ち抜くための日本大使発信強化の方策』について

平成26年4月1日：領土担当大臣 山本一太

提言の背景と狙い

- ・ 日中、日韓関係は重要な二国間関係
- ・ 両国政府が、主権、領土、歴史認識等に関する誤った事実を国際社会に向けて発信していることも事実（e.g.外交リソースでは中国に圧倒されている状況）
- ・ 日本の国益に合致しない動きに対しては、日本政府として効果的な対抗策を講じる必要



- 発信力は組織ではなく個人にある。大使の人事と任国での活動が国際広報戦略の鍵
（「人生経験、全人格をフル稼働して、現地政府やメディアに食い込む」気概と覚悟が不可欠）
- 総理官邸に各国大使の活動をフェアに評価するシステムを作ることが急務
⇒ 各国大使に高い士気とインセンティブを与える
- 大使間の論戦を分析し、ベストプラクティスを共有することも大事

大使の機能を強化する5つのポイント

1. 拠点国における戦略的人事

(1) 発信力のある大使の任命

- ・国際世論形成の観点から重要な国の大使は、発信力からみて適材かどうかを十分検討して選任(最重要:米国、英国。続いて、ベルギー、シンガポール、インド、エチオピア、仏、独等)

(2) 次席又は三席とのペアリング

- ・発信力の乏しい大使を送らざる得ない場合、次席又は三席に強い発進力を持つ人材を充てる。いわゆるペアリングの妙を図る。

2. 名称大使の活用

(1) 発信広報担当の長期滞在

- ・大使の呼称を名乗らせる所謂「名称大使」を活用(職掌を、発信と広報に限定)。
- ・選り抜きの人材を見出し、拠点国に、最低でも5年、できれば10年勤務させる。

(2) 女性大使の抜擢

- ・安倍内閣の掲げる「女性力の活用」を踏まえ、女性を登用

大使の機能を強化する5つのポイント

3. 大使の評価とインセンティブ

(1) 評価システムの確立

客観的な評価基準を作る必要

- ・記事検索データベースを用い、登場件数を例えば中国大使との比較で定量評価
- ・現地日系企業人のブログなどで評価を探る
- ・大使にfacebookの活用を奨励し、常々どういう人と会っているか、「いいね」やフォロワーがどれくらいいるか確認

(2) インセンティブの付与

- ・高い評価を得た大使には、可能なら総理、又は官房長官や所掌大臣等が、必ず月に一度は電話を入れ、状況を聞く。ヒューマンタッチの激励が最も効果的

大使の機能を強化する5つのポイント

4. メディアトレーニングの実施

(1) 拠点国大使、公使クラスへの義務化

- ・拠点国に赴任する大使、又は発信を担当する公使クラスには、その分野のプロによる「集中トレーニング」を義務化

(2) ベストプラクティスの活用

- ・各国大使による発信の実績や効果を徹底検証
- ・問題点や課題を洗い出し、ベストプラクティスを共有。メディアトレーニングにも反映

5. メディア、シンクタンクコミュニティとの接触

(1) メディア関係者との人脈

- ・任国メディアと日頃から人脈を築いておくことが肝要
- ・日本に好意的なメディア、特定層に影響力のあるメディア等へのルートを開拓する努力

(2) 拠点国のシンクタンクとの関係

- ・シンクタンクとの関係を総点検。どこに食い込むべきかロードマップを作成する必要